

## 最近の活動の状況

◇電話相談◇

子どもの虐待防止ホットライン 2020年6月15日～2020年11月10日 電話相談報告(速報値)

① 受信件数251件

1) 相談者性別・年代

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	不明	合計
女性	0	18	10	67	33	8	11	147
男性	1	0	1	94	1	1	5	103

2) 利用回数

初回	継続	不明
49	202	0

3) 相談時間

~9	~19	~29	~39	~49	~59	60分以上
11	49	80	42	19	24	26

4) 被虐待経験の有無

あり	なし	不明
209	5	37

② 内容別件数

虐待(含む危惧)	15
18歳以上の虐待	168
育児不安	11
マスコミ・問合せ	1
その他の相談	54
無言・ノイズ	0
妊娠・出産	2

\*虐待の型\*



身体的	心理的	ネグレクト	性的	不明
36	129	4.	14	0



## 編集後記

あっという間の2020年が終わろうとしています。ほとんどの時間をコロナ対策に費やし、CAPNAとしてのさまざまな活動が滞っています。今回の102号も、25年間の活動をふりかえって、中日新聞の安藤さんに虐待死の調査を中心に書いていただきました。その他、虐待してしまう加害者のケアや里親活動に取り組んでいらっしゃる杉江さんにも原稿をお願いしることができました。

来年は延期となったオリンピックを開催することになっています。コロナが落ち着き、日常をとりどせるような新年になることを願っております。

(兼田 智彦)

発行 認定NPO法人  
CAPNA事務局 〒460-0002  
名古屋市中区丸の内  
1-4-4-404CAPNA  
ニュースレター

2020年12月発行

102号

## 熱い時代の中で

安藤明夫(中日新聞編集委員)

CAPNAが誕生した1995年。私は38歳、新聞記者になって一番忙しい年だった。戦後50年企画の長期連載と、1月に起きた阪神淡路大震災の取材の傍ら、毎週の健康面に記事を書き、高齢者虐待をテーマにした本の出版準備にも追われていた。

だから、矢満田篤二さんに誘われて、設立準備会に参加したときも、この活動に深くかかわるつもりはなかった。でも、子どもの虐待問題にかかわる医療、福祉、教育、法曹の関係者たちや、電話相談のボランティアたちの熱さに、巻き込まれていった気がする。初代の代表に就任した祖父江文宏さんのオーラも、大きな魅力だった。

全国各地で熱いムーブメントが起きていた。



阪神淡路大震災の支援活動を通じて、NPOの意義が広く社会に認知され、NPOと行政の協働や、助成制度、法人格を得やすくなる法制度などが検討されていく中で、このCAPNAのネットワークによって、子どもたちの明るい未来が開けそうな気がした。

一方で、さまざまな未熟さもかかえる組織だったから、特に広報や情報発信の面で自分にできることもいろいろありそうに思えた。  
その中で手がけたのが、虐待死亡事件の調査だった。

当時、警察庁が毎年発行する犯罪白書には「児童虐待」という項目がなかった。厚生労働省は、毎年児童相談所に寄せられる相談・通告件数を公表していたが、これは児童虐待問題の深刻度を測る物差しにはなりえなかった。1990年に全国でわずか2000件だった相談・通告件数は、社会の関心の高まりとともに倍々ゲームで増えているが、これは見えなかった氷山が少しずつ見えてきたと考えるべきで、実態が見えないので対策を立てるっておかしくないか、と強く思った。

だから、自分たちでやろうとした。身体的暴力、ネグレクトなどによる死亡事件は、新聞報道されるはずだし、虐待とは分けて考えられがちな「親が子どもを巻き込んだ無理心中事件」の現状にも光を当てたいと思った。当時、新聞社もデータベースが充実してきて、各地の新聞記事を検索できるようになっていたので、いろんなキーワードで検索して事件を一つ一つピックアップし、その種類や、発生地、被害者・加害者の年齢、性別などを分類していく。検索は私、解析は、湯原悦子さん(現・日本福祉大教授)が主に担当し、それをまとめたデータブック「見えなかった死」(キャプナ出版・1998年)、「防げなかった死」(同・2000年)を出版した。

2000年に名古屋で開かれたJaSPCANの学術集会でこの本を積み上げ、みんなで声を振り上げて販売したときの一体感を今もはっきり覚えている。  
そして警察庁や厚労省も虐待事件を統計調査の対象に加え、公表するようになったので、役割は果たした感じ、調査を打ち切った。かなりの体力、気力を要する作業なので、疲れていたのも一因だろう。その後、祖父江さんが亡くなったことや、私自身の興味関心の変化もあって、次第に足が遠のいてしまった。



2001年懇親会

25年間、変わらずCAPNAの活動に情熱を注いできた方々、新しいメンバーの方々に、力になれず申し訳なく思う。  
新型コロナがまん延する中、女性や子どもの自殺が増え、とても気になっている。職場のストレスに影響されやすい男性と違って、女性や子どもは身近な人たちとの関係でダメージを受けることが多い。友達とのおしゃべりで気分転換する技術も、コロナによって大きく制約されている。CAPNAの設立当時に比べ、子どもの虐待問題への社会の対応は進んだが、虐待や暴力が生まれやすい状況も進展しているかもしれない。今後も頑張ってほしい。

## CAPNA設立25周年、おめでとうございます

元理事 野田 正文

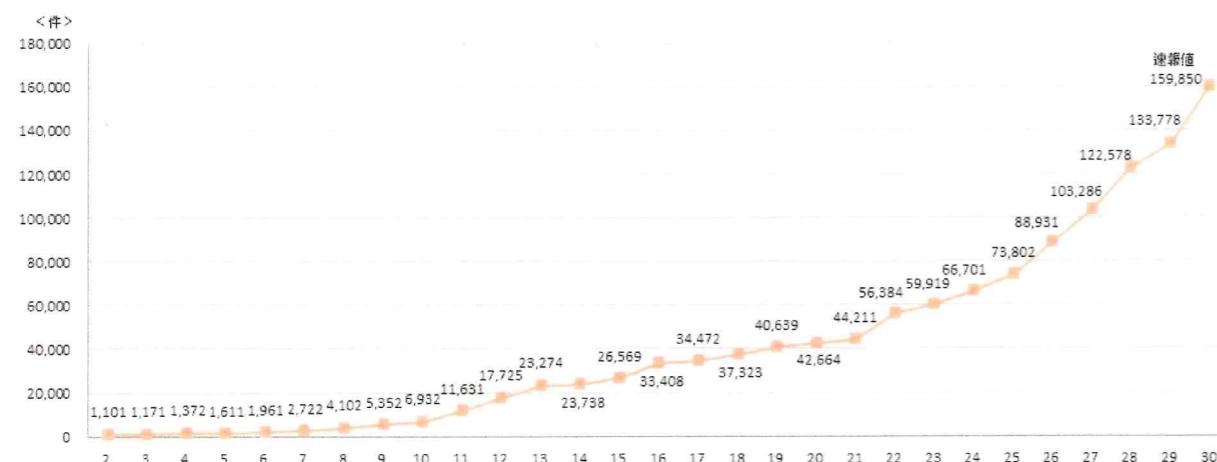
CAPNAとのご縁は定年退職までの5年間在籍していました児童相談所時代に遡ります。児童虐待防止法施行後間もない頃のCAPNAの児童相談所に対する姿勢は大変厳しい(児相職員の眼にはそのように映っていました)ものがあり、CAPNAの側では設立後間もない時期で熱意溢れる皆さん方にとっては児相の動きに対する歯痒さや怒りもありだったのではないかでしょうか。そんな中で2005年に愛知県(児童相談所)とCAPNAとの協定書が取り交わされたのは画期的な出来事でした。これを契機にCAPNAと行政(県、市町)との実質的な連携が飛躍的に進むこととなり、現在に至っているのは皆さんご周知の通りです。

2007年の春先、岩城理事長が直々に小生の当時の勤務先(某短大)に来られ、CAPNAの理事への就任要請をいただきました。思ってもみなかったお話(自分にその資格があるのか)にすいぶん迷った挙句、結局お引き受けすることとしました。力不足もあり、10年ほどで理事を辞させていただきましたが、在任中には理事会はもとより、最前線で活動されている相談員の皆さんとの交流を通じて、行政在職中とは異なる多くのことを学ばせていただき、保育士や幼稚園教諭の卵の教育にも反映させることができました。また「子ども虐待防止世界会議名古屋2014」が開催でき概ね好評が得られたのには、紆余曲折もあった中で最終的にはCAPNAの結束力と行動力が成功の最大要因であったと思っています。

最後に一言。2020.11.19付朝日新聞朝刊の社説に、厚労省発表の2019年度児童虐待対応件数速報値(過去最多)を受けて「児童虐待急増、児相の体制強化を急げ」とありました。児相の体制強化に関しては、児童福祉司の増員のみならず小生の現役当時とは比べものにならないほど図られてきています。今必要なのは十年一日の如く児相の体制強化だけを声高に叫ぶより、度重なる児童福祉法等の改正にも関わらず放置されている、虐待対応システムの見直しではないでしょうか。これまで小生も児相長経験者の実感として、同じ家族に対して強制力を伴う危機介入の権限と、親子関係の修復を目的とする支援的ケースワークの両方を、児童相談所という同一の機関が担うことの矛盾について、機会あるごとに発言等してきました。その解消のためにはこれらの2つの権限機能を別の機関で担うこと、加えて双方の機能の円滑な連携には迅速な司法の判断が必要なこと(例:十数年前から数度にわたる虹の家研修センターの海外視察報告)を、今こそこの場をお借りして訴えたいと思います。

児童相談所における児童虐待相談対応件数

厚生労働省



◇シェルター事業◇ 2020.4月-2020.6月末日

◇メール相談事業◇

2020.6.1~2020.11.30

	受付先	経路	内容	判断	支援	支援結果
6月	事務局	機関	DVケース	該当	利用	56日
9月	事務局	機関	DVケース	該当	利用	4日
10月	事務局	機関	性虐待	該当	利用	30日

月	受信件数
6月	140件
7月	136件
8月	89件
9月	167件
10月	94件
11月	75件
合計	701件



寄付者一覧 (令和2.4.~6月末日)

皆様のご支援こころより感謝します。

曾根富美子 水谷潤平 坂本精志 植田叔子 萬屋育子 原末子  
パブリックリソース 小久保裕美 子どもと親の相談センター  
塚崎真澄 中川ひで子 赤堀薰子 名女大高校・中学 山本秀樹  
在日米国商工会議所 水谷早美 他匿名希望者



### 事務局だより

今年は1月早々、中国での新型コロナ感染症の爆発的な広がりが瞬く間に世界中に広がりました。日本でもダイヤモンドプリンセス号に端を発し、日本中が半ば恐怖にも似た状態になっていったといつても過言ではないと思います。

今までに経験したことのない、休校、在宅勤務、外出自粛等々限られた狭い空間の中で家族が過ごす時間が増えました。家の外で密を避けるのは当たり前になってきましたが、逆に家の中の家族の密は避けることが出来ません。

CAPNAでも密を避けるために、様々な事業を縮小せざるを得なくなりました。とりわけ参加者が密になる“研修会”が思うように開催できなかったことは、コロナ禍の中で子どもとの関わりを考えていく上でダメージは大きいと思います。

電話相談については、一回の通話時間60分以上が前年に比べ約3倍に、メール相談件数も9月には前年の2倍以上となっています。

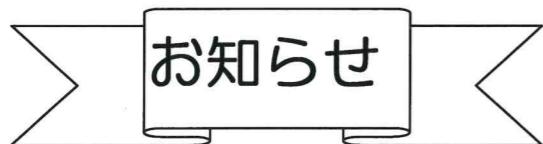
会話をすること、一人で悩まないこと、自分の思いを外に出すことが大切です。

一旦は収束に向かったかに見えたコロナも、第2波、3波さらには風邪の季節を迎え更なる感染の広がりが懸念されています。

これからも様々な変化はあるでしょう。

でも、私たちは“小さい人の笑顔のために”歩みを緩めることは出来ません。

(田崎)



**名古屋市主催**

## うつ病家族教室～うつ病のある方の家族のために～

### 第1回 うつ病と付き合う

◎うつ病のある型の日常生活や回復 ◎家族の役割などに学ぶ

日時：令和3年2月4日（木）

会場：ウィルあいち会議室5

講師：吉井浩子さん（桶狭間病院藤田こころのケアセンター 精神保健福祉士）

宮川省吾さん（訪問看護ステーション アイリス日進 訪問看護師）

定員：30名（オーバーのときは抽選となります）

### 第2回 うつ病を理解する

◎うつ病を正しく理解する ◎家族としてのサポートを学ぶ

日時：令和3年2月6日（土）

会場：ウィルあいち会議室6

講師：竹内 浩さん（名古屋第二赤十字病院 精神科部長）

庭野智美さん（訪問看護ステーション 和快 訪問看護師）

定員：30名（オーバーのときは抽選となります）

☆申し込み方法 お名前・電話番号・希望日（一日のみ、二日間いずれも可）を申込用紙に記入してCAPNA事務局までメール・Fax・電話・郵送でお申込みください

☆申し込み締め切り 令和3年1月31日（日）必着（申込用紙は事務局にあります）



**いのちの電話 市民講座・オンライン後援会**

## 寝たきり社長 佐藤仙人務の挑戦

10万人に一人と言う難病、脊髄性筋萎縮症の診断を受けるも……寝たきりの中、重度障がいの幼なじみと共に起業し経営を軌道に乗せる。ビジネスイノベーションアワード2013では「開拓特別賞」を受賞。大学講師講演会、執筆活動等精力的に活躍している。

日程：2021年1月30日（土）PM2:00～3:30

特別会場：ウィルあいち特別会議室（30名限定）

☆聴講無料

☆オンライン聴講希望の方：[メール info@nagoya-inochi.jp](mailto:info@nagoya-inochi.jp) でお申込みください。

☆特別会場聴講希望の方：先着30名 氏名・連絡先・を記入の上 Faxで送信

Fax 052-508-8384

## 「児童虐待〇（ゼロ）の日を目指して！」

青少年養育支援センター陽氣会 杉江健二

当会は平成25年から名古屋市を中心に不登校児への支援や子育て中の保護者を対象とする「イライラしない子育て講座」の開催や名古屋市からの委託事業である「名古屋市児童相談所における児童虐待再発防止の為の保護者支援事業」、オンライン子育てサロン等の子育て支援の活動を行っております。

私はもともと親の代から養育里親をしており、現在はファミリーホーム（FH）「陽氣道場」を運営しております。

今から10年前、我がFHの目の前に名古屋市中央児童相談所が引っ越してきました。児相内には一時保護所があり、多くの子どもたちが保護をされておりますが、その多くが児童虐待の被害に遭った被虐待児童です。

ある日のことです。目の前の児相の屋上から「ママー、ママー」と泣き叫ぶ小学校低学年くらいの女の子の声が聞こえてきました。それまで一度も気にしたことはなかったのですが、その日を境に、私は児相から聞こえてくる音に敏感に反応するようになったようで、児相の屋上からそうした子ども達の悲痛な叫び声が時折聞こえることに気がついたのです。

それまで私は、里親活動をすることで、児童福祉の上ではそれなりの社会貢献が果たせているという自負みたいなものがありました。しかし、それ以後、本当の児童福祉とは、そうした児童虐待に遭う子どもたちを社会からたたかれた一人でも生み出さないように働きかけることなのではないかと痛切に感じるようになりました。それを機に陽氣会を旗揚げし、「児童虐待〇（ゼロ）の日を目指して！」をスローガンに掲げてこれまで活動してきました。

「児童虐待〇（ゼロ）の日を目指して！」と聞くと、すぐに「そんなこと不可能！」と思われる方が多いと思います。しかし「私達の周りで」を文頭に付け加えて頂けたらと思います。「私達の周りで、児童虐待の被害に遭う子ども達を一人も出ない日（ゼロの日）を目指していきましょう」ということなら、決して不可能なことではありません。

残念ながら先日の報道で、昨年度の全国の児童虐待相談対応件数が過去最多（19万3780件）という残念な発表がありました。

今やらなければいつやるのでしょうか。私達がやらねばいったい誰がやるというのでしょうか。当会では今後も「児童虐待〇（ゼロ）の日を目指して！」私達にできる支援を続けていきたいと考えております。

## 事務局スタッフとして

元事務局長 今西洋子

私がCAPNAの事務局に初めて行ったのは、故上野美子さんのお誘いで第6回日本子どもの虐待防止研究会（現JaSPCAN）の学術集会の企画会議でした。その頃のCAPNA事務局は1室で、多くの人がひしめいて大会の準備をしていました。たまたま居合わせて傍聴した理事会は深夜まで議論が続き、熱気にあふれていました。

その後事務局が2室になり、愛知県内の子育て支援のNPOと行政機関が一同に会して情報交換するイベント「子育てフェスタ」が毎年開催されるようになりました。事務局ボランティアとして事務局に通うように

なり、2005年愛知万博の市民村のChildren1stとの共同企画の準備に忙しい事務局の雰囲気も味わわせていただきました。

2006年の万博終了後、事務局の体制が一新された機会に事務局スタッフとなりました。

日本子どもの虐待防止民間ネットワークの設立でCAPNAが事務局を担うことになり、民間ネットの事務局も担当することになり、毎年11月の「全国子育て・虐待防止ホットライン」の準備をしたり、全国大会で全国のみなさまと出会えたことも楽しい思い出です。

国の補助金による県の事業の委託やWAMの助成金などがいただけて、様々な事業を展開することができました。白石淑江さんが広い知見でご提案され、例えば、ヘネシー澄子さんのご協力でアメリカのHealthy Families Americaの研修を企画したり、愛知県母子保健部ループと協働で乳幼児揺さぶられ症候群の啓発ビデオを作成のお手伝いをしたり、家庭訪問の研修プログラムを企画運営したり、さまざまな虐待防止のための研修企画（愛知県・名古屋市の委託事業など）に携わさせていただき、全国的に高名な先生方をお招きすることができ、学ぶ機会を得たことは幸甚でした。また、今ではCAPNAの全国的なセミナーとなっている「安全委員会」や「赤ちゃん養子縁組」の研修会は萬屋さんや矢満田さんのご提案から始めることができました。

2014年、「子ども虐待防止世界会議名古屋2014」が2000年のあいち大会と同じ名古屋国際会議場で開催されました。現地委員としてボランティア担当をさせていただきました。事務局では早川真理さん、井上光子さんとはお互いリスペクト・信頼できる関係で一緒に仕事ができたことを幸せに思っています。研修の3日前に講師が亡くなったり、当日研修会場に行ったら部屋がとれていなかったり、ドキドキの経験でしたが、CAPNAで出会った方々、関わさせていただいた仕事は大変貴重な経験で、このような機会をくださったCAPNAにとても感謝しています。

今後もますます「子どもたちの笑顔のために」ご活躍、発展されますように祈念しております。



### ふーさんの家（DV母子シェルター）

理事 塚崎 真澄

2006年CAPNAは、DVの場合に母親と子どもが別々の場所に保護さるという実態を鑑み「虐待を受けている子どもと母親と一緒に緊急避難できるシェルター」を開設しました。年間100日程度の稼働があり、DV被害者は行政機関や警察、弁護士等を通じて一時保護されます。

この実態を踏まえて、2012年に名古屋市DV被害者ホットラインが開設されました。土日祝祭日の業務をCAPNAで受託しています。年間200件以上の受信があります。相談内容は、まさしく今危機にさらされてすぐに逃げ出したいケースから過去のDV被害経験に苦しみ悩んでいる話など様々です。

開設当初は緊急宿泊の同行支援も行っていましたが、DV被害者には一時保護の強制力がないため、帰宅されてしまう事がほとんどでした。

2019年厚労省のまとめでは、児童虐待対応件数が19万件余りで過去最多となり、警察との連携強化が進んだためとされています。その虐待の種類の中でトップをしめているのは「面前DV」です。

こうした状況の今、CAPNAはDV被害者相談に加えて、行政機関が補えない部分（緊急一時保護・短期宿泊所）の提供をしていかなくてはとの思いに至り、ゴールドマン・サックス緊急子ども支援基金事業の助成金を得てこの事業を実施することになりました。

DV被害者の支援のための関係機関との連携が、さらに強まることが期待されます。

### ホットライン相談員～15年～

電話相談員 田邊晴子

私がCAPNAホットラインの相談員となって15年ほど経ちました。

養成講座の頃には、まだ2歳だった息子は、現在18歳となりました。

自分自身の子育てをしながら、CAPNAの活動の中で学ぶことは大変多く、皆さんにも助けてもらいうながら、なんとかやってこれました。いつも本当にありがとうございます。

現在はホットラインに加えて、名古屋市の委託事業「こころの健康（夜間・土日）無料相談」の予約を受ける電話の担当をしています。

コンビニや病院など置かれた配布カードや、地下鉄に張られたステッカーなどをご覧になった方もおられると思います。

こちらの相談は、うつ病などの精神疾患を疑われる方を対象に、精神科医や臨床心理士、産業カウンセラーによる面接相談を、平日夜間、土日に行っています。

受付電話は、毎日9時～20時となっており、前半、後半と交代しますが、ホットラインの開設時間に比べると、かなり長時間となります。

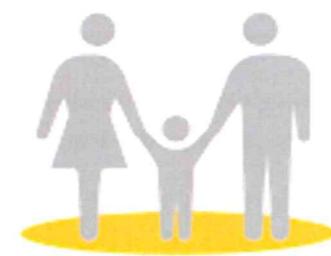
予約受付とはいえ事務的な対応ではなく、相談者さんの思いに寄り添いながら、面談に繋げるのか、社会資源を紹介するのか、じっくりお話を聴かせていただくことを心がけています。

対応させていただきながら、自分自身とても勉強になっています。

中には、他の電話相談はどこにもつながらず、ここにかけてやっとつながったと話される方もいらっしゃいます。

面談には繋がらない場合でも「話せてよかった」「気持ちが軽くなった」という言葉を聞くと、改めて「傾聴」の大切さを実感し、やっていてよかったと思います。

今後も継続して活動する予定ですので、よろしくお願いします。



#### ゴールドマン・サックス緊急子ども支援基金事業

コロナ禍で表出したDV被害者母子・若年女性のための宿泊事業

子どもの目の間で起こるDVは面前DVと言われ、子どもにとっては心理的虐待に当たっています。

被害にあっている母子、もしくは恋人間であれば若年女性などの支援のために緊急宿泊事業を実施します。

機関は11月15日から3月31日まで、今年度末までとなります。

行政の相談機関が開庁するまでの、緊急一時的な避難場所として利用していただくことができます。